

## 13:10-13:40 第1部トークセッション1「若者のウェルビーイングと求められるまちの機能」



小樽商科大学ビジネススクール  
准教授 藤原健祐

旭川市出身。北海道大学保健科学博士、小樽商科大学経営管理修士。診療放射線技師として病院で勤務していたが、医療政策や経営に興味を持ち30歳で路線を変更。「10年後の自分に投資する」と宣言し、睡眠と趣味のスポーツの時間を抑制し学業・研究+仕事の生活をなんとか両立。現在はリカレント教育推進事業や地域の健康関連事業に関わりながら医療・介護・健康×マネジメントの横断的分野で教育・研究を推進中。2児の父。



北海道教育大学岩見沢校  
芸術・スポーツビジネス専攻  
准教授 鈴木哲平

江別市出身。北海道大学保健科学博士、小樽商科大学経営管理修士。診療放射線技師の養成大学3年生の時に病院経営の仕事に興味を持ち、大学院で医療マーケティングについて研究。病院では経営企画に携わり、その後大学に戻り産学官連携の研究者として、地域の健康づくりや医療・介護・健康データ分析等に取り組む。現在は、「芸術・スポーツがどれだけ人々の暮らしを豊かに出来るのか？」について、定量的に評価・分析できないかと模索中。1児の父。

小樽商科大学3年/合同会社PoRtaru 代表社員 歌原大吾

北海道教育大学岩見沢校 芸術・スポーツビジネス専攻3年 加藤るか

## 13:40-14:25 第2部ケースプレゼンテーション

「商業施設に求められる新たな価値の研究」  
「ウェルネスのまちづくりの研究」

小樽商科大学 猪口ゼミ

小樽商科大学 大津ゼミ

## 14:40-15:00 第3部トーク「未病院」



株式会社ヘルスケア・ビジネスナレッジ  
代表取締役社長  
事業構想大学院大学 特任教授  
西根英一 氏

東京と札幌の「二拠点」生活をしながら、全国「多拠点」でヘルスケア（健康・医療・美容）をテーマに活動。ビジネス領域だけでなく、アカデミア（大学や大学院）とパブリック（省庁や自治体）を含む3領域をほぼ均等に1/3ずつに割り当てて仕事しています。マーケティングコミュニケーションを専門に、事業構想大学院大学特任教授、千葉商科大学特命教授の他、宣伝会議コピーライター養成講座（上級コース）の講師等を務めています。

## 15:00-15:30 第4部トークセッション2「ウェルネスタウン構想」



株式会社小樽ベイシティ開発  
代表取締役社長 橋本茂樹 氏

宮崎県小林市誕生。小学校から大学卒業（早稲田大学政経学部）後、26歳まで東京。27歳で北海道へ。当時のニチイへ入社（マイカル前身）。25年間激動の流通業にて勤務。システム担当、売場MG、バイヤー、営業部長、経営企画室室長を経て、OBCへ再建の為移籍。18年経過。ウイングベイを小樽の地元施設として再建中。従来の商業施設からウェルネスタウンへ。全国病院の済生会北海道支部と連携し、小樽築港地区のウェルネスタウン化へ推進中。妻と二人、札幌西区在住。長女夫婦、長男家族3人も札幌在住。九州で5年、東京で22年、札幌・小樽で43年を過ごす。



社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道  
常務理事 櫛引久丸 氏

小樽市出身。リハビリテーション技師として済生会小樽北生病院（現済生会小樽病院）に入職。当時、医療業界で不足していた経営マネジメントに興味を抱き事務職に転身、病院改革を主導。同院事務部長就任後は全国済生会事務長会会長も務め、全国各地の医療・福祉経営にも関与。一方、趣味で犬のブリーダーとして活動。ビーグル犬専門犬舎のブランディング化を成功させ、「トップブリーダー」として永年TVCM等に出演。現在は、本業と趣味の経験を駆使し、まちづくり「ウェルネスタウン構想」実現に奮闘中。妻・愛犬7頭と生活。



株式会社北海道二十一世紀総合研究所  
調査研究部次長 河原岳郎 氏

札幌市出身。小樽商科大学商学修士。同居の祖父の介護問題から、「介護」×「経営」に興味を持つ。現場ではなく、俯瞰できる仕事として「シンクタンク」に入社。仕事がきっかけで、ウェルネスに目覚め、「残業・夜型人間からの脱却」「おいしいお酒をほどほどに」を目指しているところ。様々な主体と連携しながら、制度の枠にとらわれない新たなヘルスケアサービスや仕組みづくりに邁進中。学生時代は札幌から通学。今更ながら小樽の魅力に気づき、住んでおけばよかったと少し後悔中。

## 15:30-16:50 第5部ワールドカフェ「子育て世代と考える“安心して育てられるまち”」



わくわく共育ネットワーク 副部会長  
(小樽商科大学職員)  
高山慎太郎

小樽商科大学で事務職員として働きながら、『小樽わくわく共育ネットワーク』等の様々な教育ボランティアで活動中。小樽の魅力を世界に発信するためのInstagramアカウント『Hokkaido\_OTARU\_Lovers』を運営し、現在は小樽のインフルエンサーの育成にも関わっています。